

姓等、諸可聽矣、○下

〔續日本紀文一武〕高天原廣野姬天皇統○持 十一年、立爲皇太子、八月甲子朔、受禪卽位、庚辰、詔曰、現

御神止 大八嶋國所知天皇大命止 夏麻 詔、○下

〔萬葉集六〕讚久邇新京歌

明津神吾皇之天下八嶋之中爾國者霜多雖有○下

〔萬葉集一〕幸讚岐國安益郡之時明舒軍王見山作歌

霞立長春日乃○中遠神吾大王乃行幸能山越風乃○下

〔萬葉集三〕角麻呂歌

清江乃木笑松原遠神我王之幸行處

ひじりのきみ

〔續日本後紀九〕嘉祥二年三月庚辰、興福寺大法師等爲奉賀天皇寶筭滿于四十、奉造聖像四十軀

○中 副之長歌奉獻、其長歌詞曰、○中 我國之聖乃皇波、尊毛御坐加、日宮能聖之御子能、天下爾御坐

天、御世御世爾相承襲氏、每皇爾現人神止、成給御坐下世波、○

〔和訓栞二十五〕ひじり 日本紀に聖字をよめり、萬葉集に日知とかけり、日徳を知しめす聖天

子の稱なり、又大人をもよめり、西土にも天子を聖といへれど、我邦日知の意は西土と異なり、

おほきみ

天つ日嗣をろしめす皇孫の尊を申奉るなり、

〔八雲御抄三〕帝王、おほきみ、たゞ王を

○按ズルニ、周易ノ師卦ニ、大君有命、開國承家トアレド、吾邦ノ大君ハ、此ニ依ルニアラズ、

〔令義解九〕凡服紀者、爲君子也、父母、及夫、本主、○中 一年、

〔日本書紀十一〕五十年三月丙申、○中 天皇於是歌以問武内宿禰曰、○中 武内宿禰答歌曰、夜輸瀨始

之和我於朋枳瀨、○下